

## 令和5年度中部近畿地方鉱山保安協議会中部地区部会議事概要

日 時 令和6年3月21日（木） 13時30分～15時30分

場 所 中部経済産業局総合庁舎2階大会議室

及びオンライン（Microsoft Teams 会議）によるハイブリッド開催

### 1. 議事

#### 【報告事項】

（1）中央鉱山保安協議会（令和6年3月1日開催）について

①鉱山保安法令のアナログ規制の見直しについて

②鉱業上使用する工作物等の技術基準を定める省令改正について

③第14次鉱業労働災害防止計画の取組状況について

④特定施設に係る鉱害防止事業の実施に関する基本方針（第6次）の取組状況について

⑤令和6年度鉱山・火薬類保安関連予算案について

⑥CCS事業の制度化の検討状況について

（2）令和5年度中部近畿産業保安監督部における鉱山保安に係る取り組み等について

（3）令和6年度における鉱山保安に係る取り組みについて（案）

#### 【意見交換】

（4）その他

### 2. 議事概要

#### 【報告事項】

事務局より各事項について報告した。議事は以下のとおり。

○中央鉱山保安協議会（令和6年3月1日開催）について（資料1）

（委員）

- ・中央資料5に関して、休廃止鉱山に義務者不存在、義務者存在とあるがどういうものか。
- ・不存在の比率が高いことについて、今後改善すべきものであるのか。

（事務局）

- ・鉱業権者が残っている場合が義務者存在。会社がなくなる等で鉱業権者が消失しているものが義務者不存在としている。
- ・義務者存在、不存在について現状を示しているもので、不存在の比率については変えていくものではない。鉱害防止工事の実施等により、義務者存在、不存在とも全体の対象鉱山数は減少している。

（委員）

- ・中央資料4に関して、近年における災害発生状況を見ると、令和4年にかけておおむね減少傾向であったが令和5年で増加していることについて、何か理由があるのか。

（事務局）

- ・確認の上、改めて回答させていただく。

（会議後の回答：現時点において明確な原因を把握できていないが、統計年報や月報を基に、令和5年の災害事由別の罹災者数を令和4年と比較した結果、主に「取扱中の器材鉱物等」で4名、「コンベア」で3名、「墜落」で3名増

加している事が判明している。)

(委員)

- ・中央資料2について、どの業界もデジタル技術の活用がトレンド。見直しをすることは非常に良いこと。しかし、今まで実施してきたアナログ的な事でも事故を防いできたとも考えられることから、旧態のアナログ的な手法を軽んじることはあってはならない。アナログ的な手法を重視しつつ、出来ることは補助としてデジタルを取り入れるということを議論の上で今回取りまとめられたものであるのか。

(事務局)

- ・旧態の技術、ノウハウはこれからも継続していくべきであり、どちらかにするものではなく、併せた状態でデジタル技術を取り入れるべき。中央鉱山保安協議会でもデジタル技術を前向きに取り入れるべきという意見が多数あった。今回の意見は機会をみて本省担当窓口にも伝えていきたい。

○令和5年度中部近畿産業保安監督部における鉱山保安に係る取り組み等について(資料2)

(委員)

- ・事故の件数について、石灰石鉱山や金属の件数が多いのは、鉱種に起因するのか鉱山数に起因するのか
- ・死亡災害については即死であるのか、あるいは対処の過程で死者を減らすことができる余地があるのか。

(事務局)

- ・事故の鉱種の割合と鉱山労働者数の鉱種別割合はほぼ同一であることから、鉱種別の偏りはなく、労働者数に比例して発生していると捉えられる。
- ・死亡事故については、令和5年の災害では即死状態、平成28年の災害でも亡くなった状態で発見されたと聞いている。

(委員)

- ・保安監督部では非常に手厚いメニューをどんどん提供されていると理解。様々な規模、形態の事業者がある中、事故の事例やヒヤリハット事例の共有などについて事業者ではどのような取り組みをしているか教えてほしい。

(委員)

- ・過去の事故例をカレンダーに落とし込み、毎年振り返られる取り組みを実施。また、グループ各社や兄弟会社の災害については同じ業種の職場内に共有し検討会を開催している。

(委員)

- ・現場の整理整頓の徹底、2Sだけではなく美しい職場作りを保安の一環として取り組んでいる。安全な作業に専念できる職場環境作りを徹底的に取り組んでいる。

(委員)

- ・整理整頓に加え、所作の美しさも大切。整理整頓といった環境作りの美しさに加え、個人個人の行動の美しさが社内で徹底されることで災害減少に繋がると考える。各事業者は事例の共有をはじめ厚いメニューを提供されている。災害頻度が全国に比べ高い中部で、災害を減らしていくよう目指していきたい。

○令和6年度における鉱山保安に係る取り組みについて（資料3）  
質疑なし

【意見交換】

（委員）

- ・オンライン参加の委員についても、ご意見や質問をお願いしたい。

（委員）

- ・災害事例共有について、監督部から送付される災害事例を社内に展開することを定期的に行っている。今後も一丸となって取り組んでいく。

（委員）

- ・災害情報について、現場事務所での掲示や保安教育に活用している。最近の電気設備の火災事例から鉱山では電気ケーブルの全面交換を予定している。

（委員）

- ・鉱山労働者の委員についても、コメントをお願いしたい。

（委員）

- ・会社としての取り組み、労働組合としての取り組みを各々分けて取り組んでいる。会社のグループとしての安全基本項目にもあるが、機械を必ず止めて作業することをはじめ、一緒になって取り組んでいきたい。

（委員）

- ・災害発生時は、部署でリスクアセスメントを行ったうえで保安委員会に提出し、他の部署の意見を取り入れたうえで再度リスクアセスメントを行っている。保護具の着用等、今後も徹底して取り組んでいきたい。

（委員）

- ・作業側からすると、生産を止めてもよいのかという不安がある。会社側としてプレッシャーをかけないようにし、設備を止めて良いこと、間違っても良いことをアピールすることで安全な環境作りをしており、職場の雰囲気は良くなってきている。引き続き無災害を継続したい。

（委員）

- ・役員の昔の現場での不安全を容認する考えと、今の働く人の考えが衝突することがある。高齢化の問題もあるが、人命が第一であることから、段差の躓きなど細かいリスクも洗い出して対策をとっていきたい。

（委員）

- ・大学の小さな実験室でさえ危険な点の相互チェックを行っている。手袋や保護メガネなどの保護具着用の徹底が教育現場でもある。今後、部署や業界に関係なく災害を少なくしていきたい。
- ・鉱山ではないが、コンクリートの骨材の現場で、ベルトコンベアの手を入れる場所へ危険シールの貼付等をしている現場があった。

（以上）